

夜明け前より瑠璃色な

Clouds and darkness are round about me: my judgment is brought nigh:
A fire goeth before him, and burneth up his enemies round about:
The hills melted like wax at the presence of the Lord, at the presence of the Lord of the whole earth.
The heavens declare his righteousness, and all the people see his glory.

オーガストオフィシャルハンドブック
2005年春号



前書き

こんにちは。オーガストです。

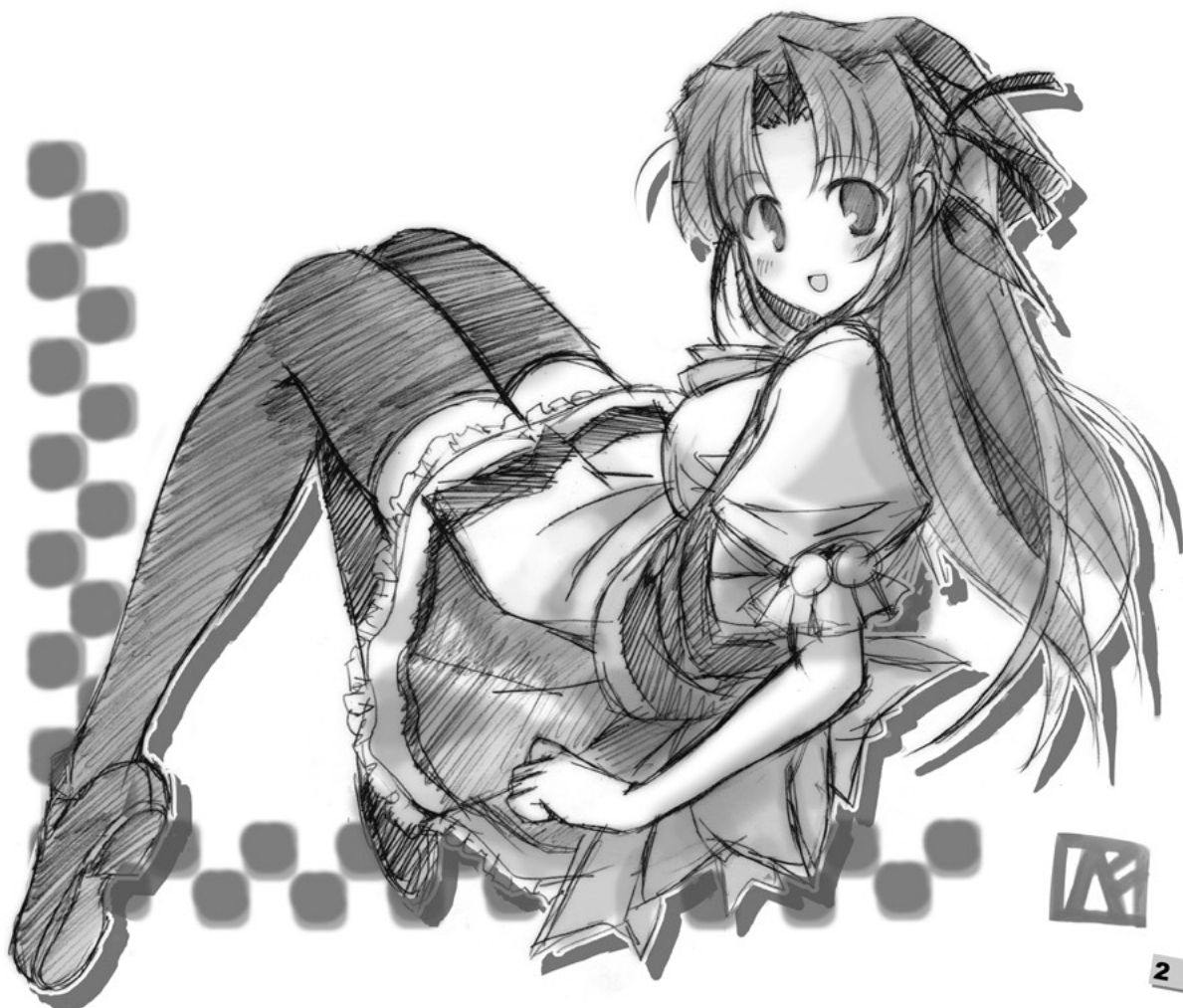
このたびは、オーガストオフィシャルハンドブックをお手に取って頂きまして、誠にありがとうございます。

今回のオフィシャルハンドブックは、新作ソフト『夜明け前より瑠璃色な』のキャラクターにより親しんで頂けるよう、4コマ漫画でのキャラ紹介をメインコンテンツと致しました。

また、前作『月は東に日は西に』のショートストーリーも掲載しております。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2005年春 オーガスト 拝





夜明け前より瑠璃色な

Clouds and darkness are round about me, but a light has appeared.
A fire goeth before him, and burneth up his enemies round about.
The hills melted like wax at the presence of the Lord, at the presence of the Lord of the whole earth.
The heavens declare his righteousness, and all the people see his glory.

キャラクター紹介 with
4コマ漫画

オーガストオフィシャルホームページ上や雑誌誌面でも、「夜明け前より瑠璃色な」のキャラクター紹介が徐々に増えて参りました。それらとは異なる手法ということで、今回のハンドブックでは、4コマ漫画を交えてのご紹介とさせて頂きました。各ヒロインの、新しい側面をお見せできるよう意識しています。

なお、4コマ漫画の作画を担当した脳みそホエホエ氏には、前作「オーガストファンBOX」や、Webラジオ「はにはにラジオ」でも作画をご担当して頂いております。それではこれより6ページ、少しでもお楽しみ頂ければ幸いです。

オーガスト最新作
「夜明け前より瑠璃色な」

2005年夏発売予定です。

暴発



「あなたが一緒なら、きっと大丈夫」

◆【フィーナのプロフィール】

9月29日生まれ・天秤座・身長162.3cm・84C/56/85・血液型：B型
 特技：学問・礼儀作法・護身術 好きなもの：シュークリーム、桃
 苦手：家事全般 嫌いなもの：生の魚料理

月の王国からやってきたお姫様。その立ち姿一つとっても育ちの良さがうかがえ、美しく上品な笑顔の中には、意志の強い性格が見え隠れしています。地球の社会勉強のため、主人公宅にホームステイにやって来るところから、物語が動き始めます。お気に入りには地球から見る空と雲。デザイン面での特徴は、ややツリ目がちな瞳とさらさらのストレートヘアー。地球に来た当初は隙を見せまいと緊張がちな彼女ですが、同じ時を過ごして親しくなっていくと、打ち解けてきます。主人公とは初対面ではないようですが……。

フィーナ・ファム ・アーシュライト

ミア・クレメンティス

フィーナに付き添い、月の世界からやってきた姫専属のメイド。とても手先が器用で、掃除洗濯炊事などなど、家事全般はばっちりこなします。まだ幼さの残る容姿ながら、姫の信頼は絶大。人の役に立つのが好きで、逆に自分から「あれがしたい、これが欲しい」と言うのは苦手。おとなしそうな外見に似合わず、よく喜んだりびっくりしたりしています。好奇心も実は旺盛。いつの間にか、商店街の人気者になっていたりもします。



「炊事洗濯お掃除耳かき、
なんでもお任せ下さい♪」

◆【ミアのプロフィール】

12月22日生まれ・山羊座・身長148.1cm・72A/52/77・血液型：A型
 特技：家事全般、ジャム作り 好きなもの：ヨーグルト
 苦手：暇な時間 嫌いなもの：マーマレード（苦いので）

ないしょのお楽しみタイム



遠慮なし



「あのね、お兄ちゃん……実は」

◆【朝霧麻衣のプロフィール】

8月3日出生れ・獅子座・身長153.7cm・78B/54/79・血液型：A型

特技：フルーツ演奏、家事全般

好きなもの：アイス

苦手：最近「お兄ちゃん」と呼ぶのが恥ずかしい

嫌いなもの：ホルモン系

主人公の妹。実は彼女は幼い頃に朝霧家へ養子に來たのですが、両親亡き今、主人公と血縁関係が無いということは、当人たち以外誰も知りません。このことは、主人公と彼女の間の秘密となっています。フィーナ達が来るまで、朝霧家の家事を担っていました。料理も得意。学院では主人公の一つ下の学年。吹奏楽部に所属しており、担当楽器はフルート。晴れた休日などは、よく兄を連れ出して川原で練習をしています。アイスが好きで、美味しいアイスには目がありません。

朝霧麻衣

鷹見沢菜月

明るく元気な、主人公の幼馴染み。朝霧家の隣の家に住んでいます。自宅では「トラットリア左門」というイタリア料理店を経営しており、菜月自身もウェイトレスとして家業を手伝っています。持ち前の明るさと世話好きな性格から、いつも周囲には人が絶えません。主人公の家とは隣り合っている上、部屋もすぐ向かいにあるため、お互いの部屋には二階のベランダ伝いに行き来することができます。もともと、現在では行き来は禁止され、会話をするくらいなのですが……。

真打ち登場



「あああ、もうこの話は終わり、ね、終わり終わり」

◆【鷹見沢菜月のプロフィール】

5月23日生まれ・双子座・身長163.8cm・88D/59/86・血液型：AB型
 特技：動物の世話、ウェイトレス業務
 好きなもの：野菜ジュース
 苦手：なんとなく運が悪い
 嫌いなもの：油っこいもの

フェイク



「家族としては、
やっぱり協力してあげないと」

◆【穂積さやかのプロフィール】

3月6日生まれ・魚座・身長165.0cm・86C/58/86・血液型：O型
 特技：仕事がデキる 好きなもの：ポテト系スナック
 苦手：自分が絡む恋愛沙汰にニブい 嫌いなもの：炒め物の中のフルーツ

麻衣や主人公と同居し、面倒を見てくれている年上の女性です。現在は月王立博物館に勤務。外見はほんわかしていますが、仕事はとてものことから、館長代理という重職についています。月に留学していた経験もあり、フイナ姫とは以前から知り合いだった模様。ふわふわのウェーブヘアが特徴で、作中に限りリボンでゆわえています。主人公や麻衣のよき保護者であるうとしていますが、逆に主人公の方は、いつまでも甘えてはもらえないと胸に思うこともあるようです。

穂積さやか

リース リット・ノエル

主人公が、月人居住区画内の教会や街中で見かける女の子。無口で無表情。一見しただけでは何を考えているのかわかりません。声をかけても無視されてしまうこともしばしば。たまに口を開くと率直かつ鋭い言葉を浴びせてくれますが、本人は悪気はないようです。意外と行動はすばしこく、触ろうとするとするりと逃げます。



天敵



◆【リースのプロフィール】

4月19日生まれ・牡羊座・身長139.2cm・63AA/49/67・血液型：B型
 特技：不明 好きなもの：不明
 苦手：さやか 嫌いなもの：不明

べっかんこう(以下べ):こんばんは。べっかんこうです。
榊原拓(以下榊):こんばんは。榊原です。まずは、新作の制作の進み具合について一言どうぞ。

べ:今はイベントCGをもりもり描いています。進み具合は……何とか、遅れないように頑張ってます。

榊:こちらも、ゲーム本編のシナリオをもりもり書いてます。進み具合も、こちらと同じような感じ。

べ:では……今回の対談のネタは?

榊:4コマで紹介できなかった、サブキャラのデザインについて少し話しましょうか。

べ:ああ、いいですね。サブキャラは、けっこうデザインの自由度も高いですね。

榊:ではその「自由度が高い」について、解説をどうぞ。

べ:ええと、メインというか、攻略対象キャラは、やはりあまり尖ったデザインにはしにくいんです。……あ、この場合の「尖ったデザイン」というのは、「あまり人気が出なそう」も含みます。

榊:端的に言うと?

べ:言わせようとしてますね(笑) 端的に言うと、例えばメガネです。人気出ると思うんだけどなあ。

榊:メガネはいいですね。ではその「カレン(注1)」のデザインについてどうぞ。

べ:メガネが描きたくてデザインしました。(笑)

榊:シンプルですね(笑) では、「遠山翠(注2)」について。

べ:サブキャラで元気という話だったので、かなり自由に描かせてもらいました。でも、あまり派手にはならないように。頭の飾りもありません。

榊:なるほど。ありがとうございます。他にもサブキャラは登場します(注3)が、今日はこれくらいにしておきましょう。

べ:では、次にシナリオについて訊いていいですか?

榊:いいえ。ちょっと短いですけど、今回はこれにてちょうど時間となりました。

べ:うわっ、ずるくないですかそれ!

2005.4.16 AM2:20 社内にて

注 1:カレン・クラヴィウス

このページのカットで上の方に描いてあるメガネのお姉さん。月の大使館にいる秘書官で、フィーナのことを気にかけている。さやかとは友達。胸が無いのがコンプレックス。

注 2:遠山翠(とおやま・みどり)

このページのカットで下の方に描いてある元気な同級生。菜月や主人公とも同じクラス。吹奏楽部では麻衣の先輩。少しあわて者で、明るく賑やかだが、恋愛話になるとカチコチに固くなってしまふ。

注 3:他のサブキャラについては、オーガストオフィシャルHP (<http://august-soft.com/>) をご覧下さいませ。

ソフト対談
第10回 べっかんこう & 榊原拓



月は東に日は西に

Operation Sanctuary

はにはにシヨートシタワー最終回

祝・入学

守西 秀明

「ちひろ？ ここには来てないけど」

「テールを拭く手を止めて、茉理が答える。

「まさか、噂したんじゃないでしょうね？」

「違うって。一緒に帰ろうと思ったんだけど、

温室にいらなくてさ」

「そう、ならいいけどさあ……」

温室にも教室にも、ちひろちゃんの姿はな

った。

こうなると……いる可能性があるのは保健室

くらいか。

「悪かった、邪魔したな」

「あ、直樹っ」

「一歩踏み出した俺を、茉理が呼び止める。

「何だよ」

「あ、あのさ、せっかく付き合ったんだから、

仲良くしてあげてよね」

「……分かってるって。心配するなよ」

手だけで茉理に挨拶し、俺はカフェテリアを

後にした。

保健室の扉には『作戦会議中』という新型の
札が掛けられていた。

「久住です、失礼しまーす」

保健室には案の定ちひろちゃんがいた。

もちろん、いつもの先生二人も陣取っている。

三人は、コーヒーと塩せんべいを囲んで、何

やら話し合いをしていた様子だ。

「久住先輩、どうしたんですか？」

ちひろちゃんが慌てて立ち上がり、小走りに

寄って来た。

「一緒に帰ろうと思ったんだけど、温室にい

なかったからさ」

「すみません、ちよっと……」

ちひろちゃんは、困ったように保健室の奥を

伺った。

二人の先生は、俺達のやり取りにも反応せず、

深刻そうに唸っている。

「あの、もしかして……邪魔だったかな」

「くーずみー」

「はいっ！」

俺に背中を向けたまま恭子先生が呼ぶ。

うめくようなその声に、思わず硬直した。

「せっかく来たんだから、お茶くらい飲んで

いきなさいよ、ね？」

振り向いた恭子先生は、満面の笑顔。

「な、何かあったの？」

ちひろちゃんにひそひそと耳打ちする。

「えっと……何かあった訳では無いのですけ

れと……」

「さあさあさあ、久住くんはここに」

甲斐甲斐しく椅子を用意した結先生が、ぼん

ぼんと座面を叩く。

「……逃がす気はないみたいだね」

「すいません、久住先輩」

先生達の笑顔に促され、俺たちは並んで椅子

に座る。

「ねえ久住……」

俺にコーヒーを渡しながら、恭子先生が上目

遣いで口を開いた。

こういう時の上目遣いは、トラブルの予兆だ。

「去年のオリエンただけれど……料理部は

大根のかつらむきををしたのよね」

「へ？」

「だから部活説明よ、藤枝の料理部は実演し

てたじゃない」

「ああ、ああ……やってたみたいですね」

「サッカー部は、説明の間ずーっとリフティ

ングをしていました」

結先生が椅子から足をぶらぶらさせながら言う。

「やっぱさ、実演を見せたクラブって、新入

部員が多いのよね」

「はあ……まあ説得力はありますからね」

「それじゃあ……園芸部はどんな実演したら

いいかしら？」

恭子先生が、疲れたように天井を仰ぎながら

言う。

「一瞬、質問の意味がわからなかった。

「ええと……それはどういう？」

「だーかーらー、園芸部は新入部員獲得の為

に、どんな実演したらいい？ って聞いてる

の」

今度は身を乗り出して聞いてくる。

「仁科先生、今年こそはちゃんとオリエンに

出て、新入部員を勧誘したいそうなんです」

隣のちひろちゃんが、こっそりと耳打ちをし

てくれる。

「ああ、なるほど……」

顔きつつ頭をめぐらす、見栄えのする実演

など思い当たらない。

「植物に何かさせるなんて芸当、できました

っけ？」

「あのね、植物が何もなしに動くと思う？」
恭子先生がきつい流し目をくれる。

「何かできる植物……あ、食虫植物は動きま
すよ」

ハエジゴクの真似だろうか、結先生は楽しそ
うに指をわしやわしや動かしている。

「うへえ」
「私が新入生なら、絶対入らないわね、その
部活」

恭子先生は深いため息をつく。

「仁科先生も、文句を言うなら意見を出して
くださいよ」

結先生が少し不満げに言い返す。

「え、えっと、何かの植物を育てて……」
「これから育てるとなると、モヤシかカイワ
し大根が関の山ですねえ」

結先生が大げさに肩をすくめる。

「食虫植物よりもカイワシ大根の方がマシで
しょう？」

「それじゃあ園芸部じゃなくて、菜園部じゃ
ないですか。大体、実演というの……」

二人は、あーだこーだと揚げ足取りを始める。
教師二人の話し合いとは思えない建設性の低
さだ。

「さっきからこんな様子なんです」
ちひろちゃん小さなため息を漏らした。

「久住くんは、何か思いつきませんか？」
「そうそうそう、久住も半分は園芸部員みた
いなもんだし、何か考えなさいよ」

二人に促され、腕組みをして考えてみるが……
……そう簡単には案は出ない。

「そうだ、去年の園芸部は何をやったんでし
たっけ？」

恭子先生はこめかみに指をあてて、淡い顔を

している。

「去年はオリエンに出るところか、存在自体
知らなかったのよ」

「そういえば、そうでしたね……」

「でも、天文部は広瀬君が真面目に説明して
ましたけど、新入部員は天ヶ崎さん一人でし
たね」

弘司が聞いたら泣きそうなことを、さらりと
言つてのける結先生。

「特別何かをしなくても、普段の活動を見て
もらえばいいじゃないですか……温室を見て
もらうとか、ほら」

ちひろちゃんもうんうんと頷く。

「インパクトに欠けるのよね。それじゃ文化
祭と一緒にやない」

椅子の背もたれを「ギコ」と鳴らし、恭子先
生はつまらなさそうに天井を仰ぐ。

「俺は園芸部にインパクトを求める方が、難
しいと思います……」

「明日もう一度作戦会議するから、ちゃんと
案を考えてくるのよ」

と、保健室を開放された頃には、学園が西日
に染まっていた。

昇降口を出て、ちひろちゃんと並んで歩く。

「帰りにどこか寄っていいところか？」
そう話しかけても、考え事しているのか上
の空だ。

「ちひろちゃん？」

「あつ、はいっ？」

「あまり根詰めて考えても、良い案が浮かぶ
とは限らないと思うよ」
「はい、でも……」



月は東に日は西に

Operation Sanctuary

ちひろちゃんが言いかけたところで、時計塔の鐘が午後五時を告げた。荘厳な音色に誘われ、朱色に染まる塔を見上げる。

「オリエンか……」

去年の春、俺は茉理の父兄として入学式に参加した……が、退屈に負けて抜け出した。

その時、講堂の前でぶつかったのが、ちひろちゃんとの出会いだ。

「もうすぐ一年になるんだね」

「はい」

俺と同じことを考えていたのか、ちひろちゃんも塔を見上げていた。

「あの時、ちひろちゃんはこうしてここにいたの？」

茉理と同じ一年生のちひろは、入学式に出席してなくてはいけません。

「えっと……笑いませんか？」

「笑わない」

「校門通りに桜がありますよね」

「ああ」

「つい見とれてしまっただけ、気づいたらあんな時間に……」

「桜並木か……俺も入学した時の桜吹雪には見とれていたな」

「……」

「ちひろちゃん？」

「桜吹雪……」

「元を手をあてて、ちひろちゃんは思案顔になる。」

「久住先輩、あの桜並木は、どなたかが手入れされているんですか？」

「ええと……手入れしてるの自体、見たこと無いなあ」

「久住先輩、桜ですよ！」

「ん？」

「この桜並木を、園芸部で手入れしたらどうでしょうか？」

「何でまた？」

「新入生は、最初に校門をくぐった時、必ず桜を見上げると思います。だから、去年よりずっと綺麗な桜が咲くように、園芸部で手入れをするんです」

「はあ」

「誰よりも早く、綺麗な桜で新入生を歓迎してあげられたら、素敵だと思いますか？」

「はい」

翌日、ちひろちゃんの案は仁科先生に提出された。

「ちょっと橋、本気であの桜並木全部を手入れするつもり？」

「はい、大変だとは思いますが、きっとできると思います」

「恭子先生、俺も手伝いますから」

「……」

腕組みをし、目を閉じて考え込む恭子先生。「だめでしょうか……」

「いいわ、理事長には私から言っておくから、やってみましょう」

「ありがとうございます」

ちひろちゃんは、俺の手をとって大喜び。

「……橋、久住と仲がいいのはわかるけれど、」

「応学校の中だしね」

「すっ、すみませんっ」

慌てて手を離れたちひろちゃんを、恭子先生は笑って見ている。

「で、いつからはじめるの？」

「えっと……桜の手入れはだいたい1月から1月の間にするそうなんです」

ちひろちゃんは事前に下調べもしてくれただけ。

「1月って、あと一週間しかないじゃない」

「ですから、今すぐ始めようと思います」

「分かったわ。まずは必要なものをリストアップしないとね」

「はいっ！」

それからの行動は早かった。

俺とちひろちゃんが、まず雑草むしりを始める。

恭子先生と結先生は、必要な道具や肥料の買い出しをしてくれた。

「恭子先生、こっちの雑草むしり、終わりましたよ」

「ご苦労様、野乃原センセはどうかしら？」

雑草を詰め込んだゴミ袋を引きずりながら、結先生がまた来た。

「こっ……こっちも終わりましたあ……」

「しかし、結先生まで手伝ってくれると思いませんでしたね」

「まあ、人徳よ」

「人徳ですか……」

おおかたプリンを報酬に充てて釣ったのだろう。

放課後は、毎日黙々と作業を続けていたので、作業は急ピッチで進んだ。

「ねえ久住、アンタ園芸部に入っちゃったら？」

「へっ、俺ですか？」

肥料を埋める穴掘りの手を止める。

「天文部の活動してるより、温室にいる時間

月は東に日は西に

Operation Sanctuary

の方が長いみたいだしさ」
確かに、天文部の活動よりも園芸部の手伝いの方が活動時間が長い。

「久住が入ってくれば……橘も喜ぶと思うんだけれどなあ」
「にっ、仁科先生っ！」

結先生と枝の剪定をしていたちひろちゃんが、枝切りばさみを抱きしめて耳まで赤くなっている。

「駄目ですよ、久住くんは天文部の大切な頭数ですから」
「部員とかメンバーじゃなく、頭数扱いですか……」

「ほーら、橘も言ってるやんなさい、一緒に園芸部やりましょうって」
「そ、そんな……」

「だから部員の引き抜きは駄目ですってば、ああ、橘さん枝を切りすぎです」
「わあ、ごめんなさいっ」

「いいわよ、久住が喜んでフオーローしてくれるから、ねえ？」
「なっ、なんでですかそれは……」

「かわいい後輩が助けを求めているのに、ほっとくの？」
「た、誰も、しないとっては言っていないじゃないですか」

顔が熱くなるのを感じながら、俺は道具箱の癒合剤に手を伸ばす。

「す、すみません……」
「橘も、この程度で動揺するようじゃ、まだまだね」

「恭子先生がからかうからですよ」
「いいじゃない、ここ毎日穴掘りばかりだっ

たから和むでしょ？」
……こうして、連日の努力の甲斐もあり、1月中にはすべての作業を終えることができた。

新学期。
去年よりも色鮮やかに咲いた桜が、これから学園生活を始める新入生を桜吹雪で出迎えた。講堂の階段から、俺とちひろちゃんは並んでその様子を見ている。

「ふふっ、久住先輩、見てください」
ちひろちゃんの視線の先には、真新しい制服を着た男女がうつむいたまま並んで歩いていた。

「幼なじみでしょうか？」
男の子が女の子の髪についた花びらをつまみ、はにかみながら言葉を交わす。

「そうかもね」
女の子が男の子の手を握ると、嬉しそうに二人は走り出した。

「これからの学園生活のスタートとしては、最高の歓迎だね」
「きっと、私たちがみたいな素敵な出会いがあると思いますよ」

見つめ合う俺たちの間を、春の香りに舞った薄紅の花弁が通り抜け、時計塔が予鈴の鐘を鳴らす。

「そろそろ、説明会に行こうか」
差し出した手を、ちひろちゃんの柔らかな手が握り返す。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

「はいっ」
暖かな日差しの中、俺達は手をつないで階段を踏み出した。

終わり



後書き

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

ゲーム制作の各パートとも、持続可能な最高速で仕事を進めています。

さて、その各パートの担当者ですが、早速「夜明け前より瑠璃色な」のキャラクターに愛着が湧き始めているようです。

いつものことですが、それぞれが自分の担当外のパートの仕事に対して「いや、このキャラクターはもっとこうでしょ」と提案したり突っ込んだり。発売するころには、きっとまた全スタッフが「自分の娘のようなもの」と思えるようになるでしょう。

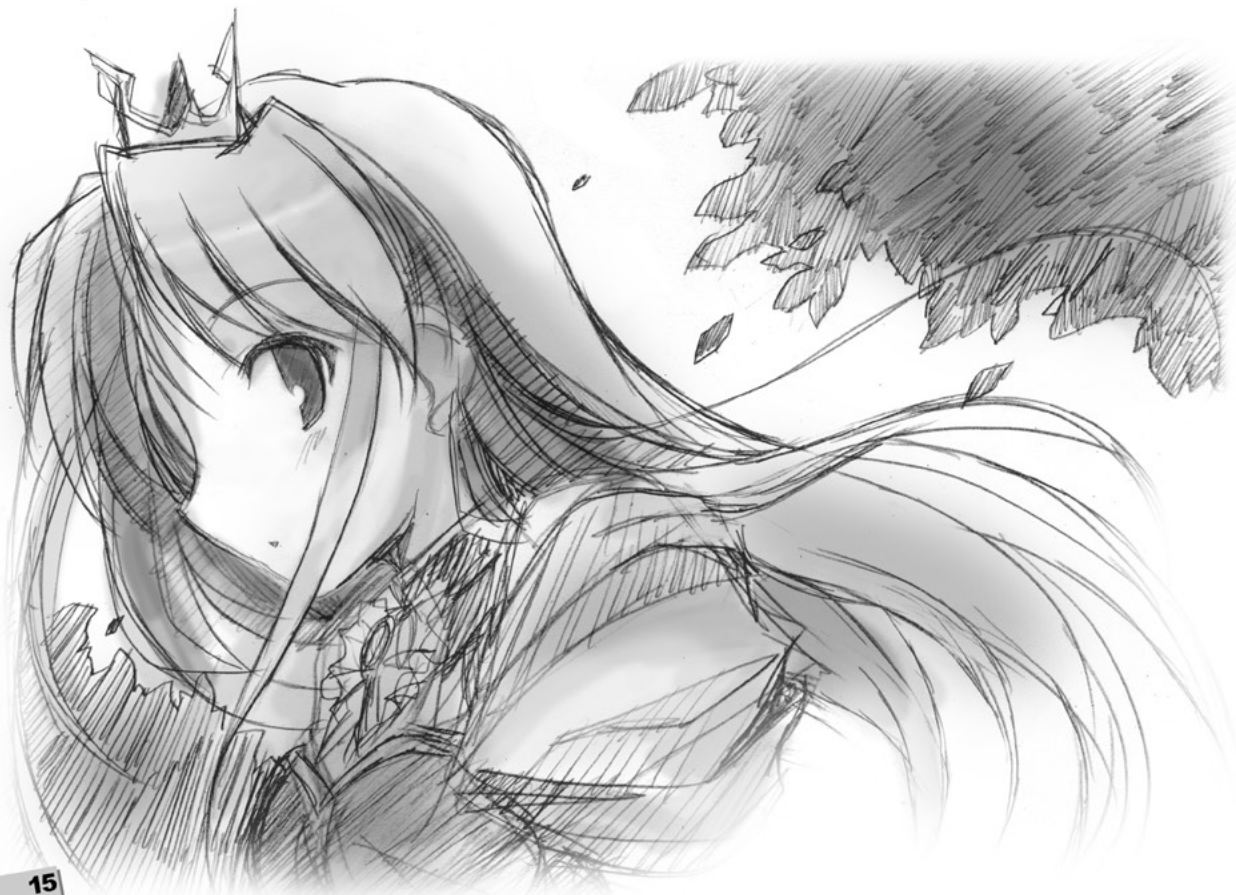
これ以降は、もうこの速度のまま、マスターアップまで走り続けていきます。

ご期待頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。

今後とも、オーガストをよろしくお願い致します。

2005年春 オーガストスタッフ一同





夜明け前より瑠璃色な

Clouds and darkness are round about him, and judgment is his bow. A fire goeth before him, and burneth up his enemies round about. His lightnings have brought down hail from the sky, and he has trembled. The hills melted like wax at the presence of the Lord, at the presence of the Lord of the whole earth. The heavens declare his righteousness, and all the people see his glory.

『オーガストオフィシャルハンドブック 2005春号』

発行・オーガスト
発行日・2005年春